

公開実用 昭和59— 115756

① 日本国特許庁 (JP)

② 実用新案出願公開

③ 公開実用新案公報 (U)

昭59—115756

④ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑤ 公開 昭和59年(1984)8月4日

B 65 D 45/20

6564—3E

A 45 D 40/00

6671—3B

審査請求 未請求

(全 頁)

⑥ 容 器

号釜屋化学工業株式会社東京工場内

⑦ 実 願 昭58—9407

⑧ 出 願 人 株式会社資生堂

⑨ 出 願 昭58(1983)1月25日

東京都中央区銀座7丁目5番5号

⑩ 考 案 者 鳥羽忠臣

⑪ 出 願 人 釜屋化学工業株式会社

武蔵野市吉祥寺東町1—17—9

東京都台東区浅草橋5丁目23番6号

⑫ 考 案 者 大竹惟隆

浦和市白幡3の1の9

⑬ 考 案 者 田原登美雄

⑭ 代 理 人 弁理士 志賀正武

東京都板橋区加賀1丁目14番1



明 細 書

1. 考案の名称

容器

2. 実用新案登録請求の範囲

上面が開口した有底筒状の容器本体と、この容器本体に蝶番を介してヒンジ結合された蓋体と、この蓋体の内面に取り付けられ前記容器本体の上面に吸着する吸盤と、前記容器本体に可動に取り付けられ前記吸盤を上方に押し上げるための操作部材とを具備して成る容器。

3. 考案の詳細な説明

この考案は化粧クリームなどを入れる容器に関するものである。

従来、化粧クリームなどを入れる容器においては、容器本体の口部外周に設けられたおねじと蓋体の内周に設けられためねじとの螺合によつて密封されるようになってゐる。この種の容器では蓋体を開ける際に、片手で容器本体を保持し、もう一方の手で蓋体をひねつて開けるために、両方の

(1)



手を使用する必要がある。また蓋体を開けた後は蓋体と容器本体とが分離するので、蓋体を置く場所がない場合には、それを持つたまま化粧クリームをすくい取ることになり、すこぶる不便である。

この考案は前記事情に鑑みてなされたもので、蓋体と容器本体とを蝶番を介してヒンジ結合し、蓋体の内面に容器本体の上面に吸着する吸盤を取り付け、この吸盤を押し上げる操作部材を容器本体に可動に取り付けたことにより、密封性に優れかつ片手で蓋体を開閉することができる容器の提供を目的とするものである。

以下、この考案の一実施例を第 1 図ないし第 5 図に基づいて説明する。

この容器は上面が開口した有底筒状の容器本体 1 と、この容器本体 1 に蝶番 2 を介してヒンジ結合され容器本体 1 を開閉する蓋体 3 とから成る基本構成とされている。

前記容器本体 1 はさらに、化粧クリームなどを収容する収容器 4 と、この収容器 4 の上部に螺嵌させられた環状部材 5 と、この環状部材 5 の外周



に蓋体 3 を開けるために可動に取り付けられた操作部材 6 とから構成されている。

前記収容器 4 は上部に小径の口部 4 a が形成され、この口部 4 a の上面は後述の吸盤 7 の被吸着面として平滑に形成されている。この口部 4 a の外周には環状部材 5 が容器本体 1 の外周と面一に螺嵌させられている。この環状部材 5 は口部 4 a に螺嵌させられた状態で、口部 4 a の上面から突出する高さに形成されている。また環状部材 5 の外周の一部には上面から外面にかけて切り欠かれた凹部 8 が形成されている。さらに前記環状部材 5 の上面には、凹部 8 から環状部材 5 の内周側に掛けて蓋体 3 の閉位置で吸盤 7 の後述する舌片 9 を収納する溝 10 が形成されている。

そして前記環状部材 5 の凹部 8 内に、蓋体 3 を開けるための操作部材 6 が、この操作部材 6 に設けられた軸 11 を凹部 8 の側面に設けられた孔 12 に嵌合させることによつて、軸 11 を中心に回転自在に取り付けられている。この操作部材 6 はその外面が環状部材 5 の外面と面一に形成され、



長さ方向ほぼ中央の内面には、回転操作によつて吸盤 7 を押し上げるために突片 6 a が設けられている。また操作部材 6 はこの操作部材 6 を環状部材 5 に取り付けた状態で、操作部材 6 の上部が環状部材 5 から上方に突出する高さに形成されている。

容器本体 1 の前記環状部材 5 には操作部材 6 と反対位置に、容器本体 1 を開閉する蓋体 3 が蝶番 2 を介して回転自在に取り付けられている。この蓋体 3 の自由端には、蓋体 3 の閉位置で前記操作部材 6 の上部を嵌合させる切欠部 1 3 が形成されている。また蓋体 3 の内面の中央には環状リブ 1 4 が設けられ、この環状リブ 1 4 内に吸盤 7 がその中央に設けられた突起 1 5 を嵌合させて固定されている。この吸盤 7 は前記収容器 4 の口部 4 a の上面全面に吸着する大きさに形成されており、かつ前記蝶番 2 と反対位置の外周には舌片 9 が設けられている。この舌片 9 は蓋体 3 の閉位置で前記環状部材 5 の溝 1 0 内に収納され、かつ先端を前記操作部材 6 の突片 6 a 上に当接させ、蓋



体 3 と突片 6 a とによつて挾持されるようになつてゐる。

なお、蓋体 3 が容器本体 1 に仮止めされて閉じられるように、第 5 図に示すように蓋体 3 の内面および容器本体 1 の前記凹部 8 にフック 16 を設けてもよい。

以上のように構成された容器においては、蓋体 3 が閉じられている状態では吸盤 7 が口部 4 a の上面全面に吸着して容器内が完全に密封されている。

この状態から蓋体 3 を開けるには、蓋体 3 の切欠部 13 に嵌合させられている操作部材 6 の上面に指を掛けて、これを第 2 図に示す A の方向に回転させれば、吸盤 7 の舌片 9 が操作部材 6 の突片 6 a と蓋体 3 との間に挾持されつつ突片 6 a によつて押し上げられることにより、吸盤 7 内に空気が吸入されて吸着が解放される。これにより蓋体 3 は簡単に開けることができる。また蓋体 3 は樂番 2 によつて容器本体 1 にヒンジ結合されているので、容器本体 1 から分離されず、蓋体 3 を開け



た後はそのまま内容物をすくい取ることができ、蓋体 3 を他の場所に置く面倒がない。

蓋体 3 を閉じる際は、蓋体 3 の上面を指などで押し下げれば吸盤 7 が容器本体 1 に吸着して蓋体 3 が閉じられる。

次に、この考案の他の実施例を第 6 図に基づいて説明する。

この実施例においては、収容器 4' の外周全面に環状部材 5' が嵌合されており、この環状部材 5' の上部外面に軸方向にスライド溝 17 が形成され、このスライド溝 17 に吸盤 7 を押し上げるための操作部材 6' が上下方向に摺動自在に取り付けられている。またスライド溝 17 内には操作部材 6' の上方への抜け止めのために突起 18 が設けられ、操作部材 6' の内面に設けられた突起（図示せず）と操作部材 6' の上方位置で係止するようになっている。

また、蓋体 3' の中央には孔 19 が形成され、この孔 19 に蓋体 3' の内面側から吸盤 7 の突起 15 が嵌合させられ、外面側から半球状の凸栓



20が嵌合させられて吸盤7が蓋体3'に固定されている。

このように構成された容器においては、操作部材6'を上方に摺動させることにより、吸盤7の舌片9が押し上げられ、吸盤7内に空気が吸入されて吸着が解放される。したがって蓋体3'は片手で簡単に開けることができる。

以上説明したようにこの考察によれば、蓋体と容器本体とを契番によつてヒンジ結合させ、蓋体の内面に容器本体の上面に吸着する吸盤を取り付け、この吸盤を押し上げるための操作部材を容器本体に可動に取り付けた構成としたので、吸盤によつて容器内が完全に密封されかつ蓋体は契番によつて結合されたまま片手で簡単に開閉することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案の一実施例を示す容器の斜視図、第2図は第1図のⅠ-Ⅰ線に沿う縦断面図、第3図は蓋体を開けた状態を示す縦断面図、第4図は第1図の分解斜視図、第5図はフックを設け



た容器本体と蓋体との斜視図、第 6 図はこの考案
の他の実施例を示す分解斜視図である。

1 …… 容器本体、 2 …… 蝶番、 3 , 3 ' …… 蓋体、
6 , 6 ' …… 操作部材、 7 …… 吸盤、 9 …… 舌片。

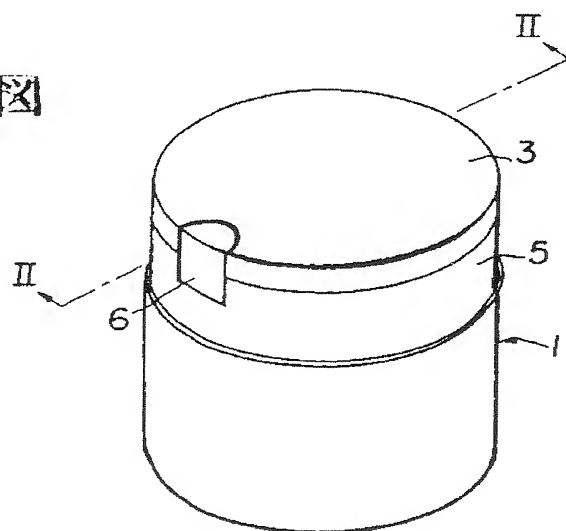
出願人 株式会社 資生堂

釜屋化学工業株式会社

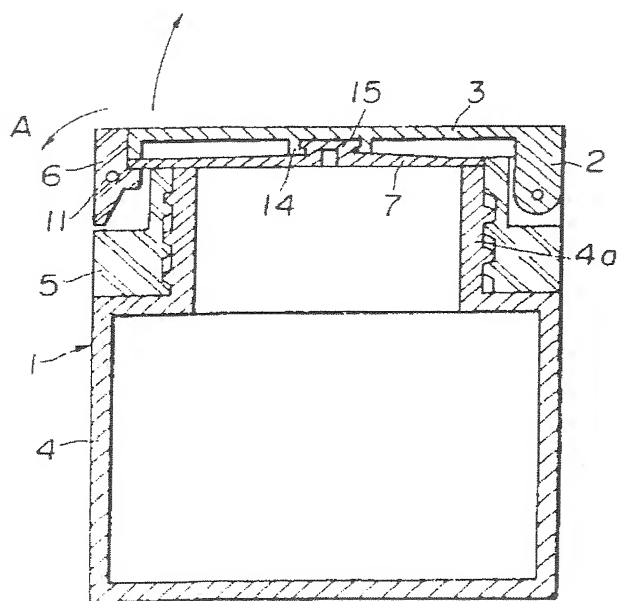
代理人 弁理士 志 賀 正 武



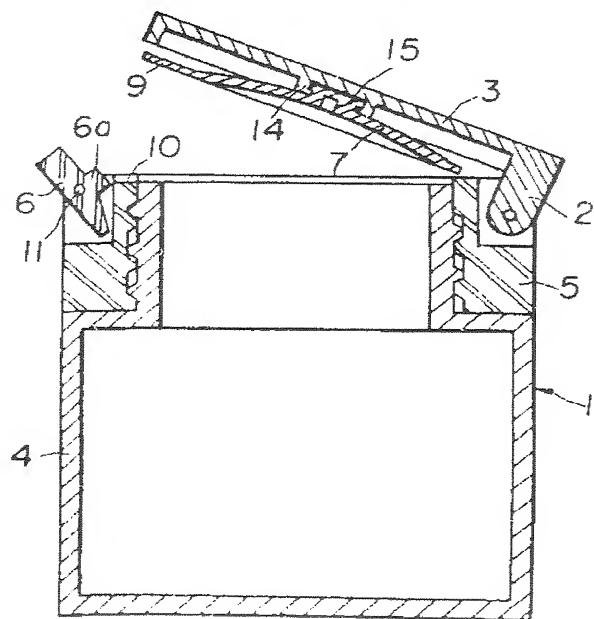
第 1 図



第 2 図



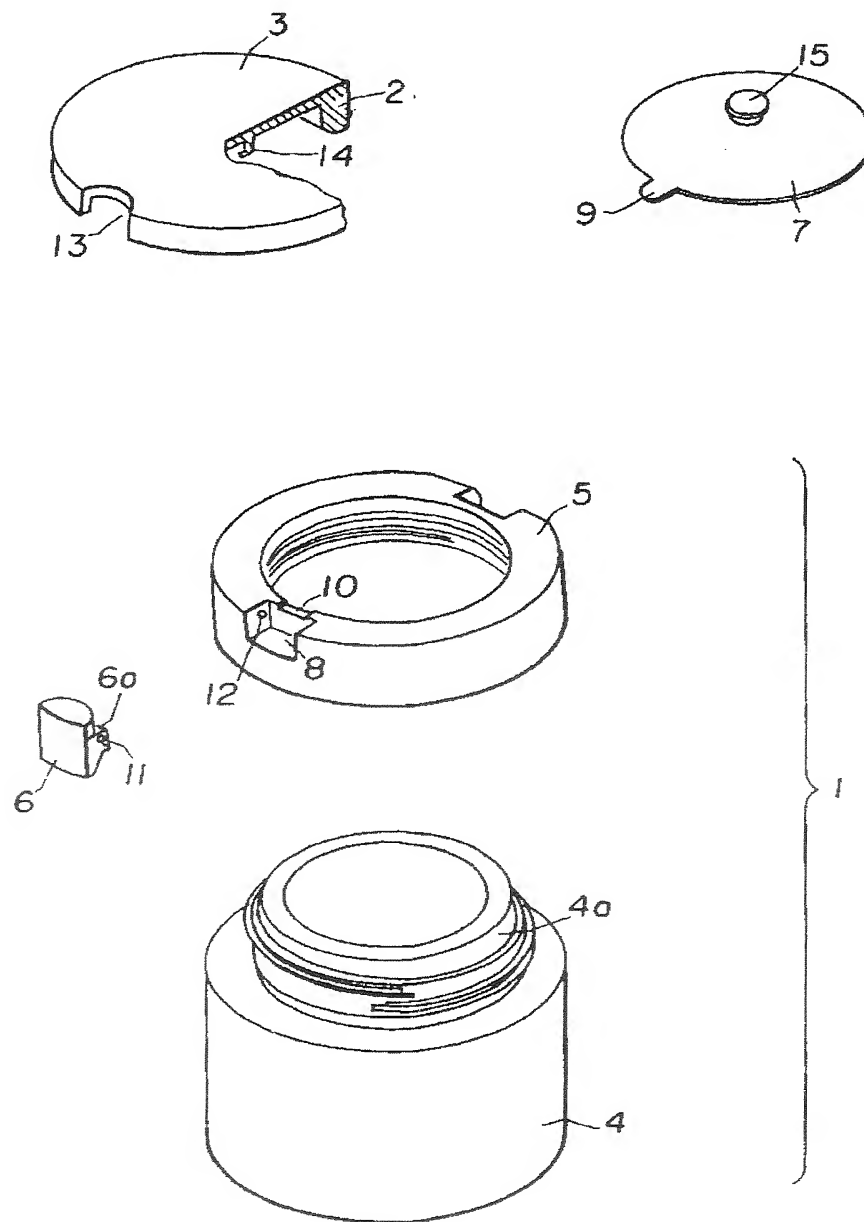
第 3 図



出願人 株式会社 資生堂 駐加代表

代理人 弁理士 志賀正武

第 4 図



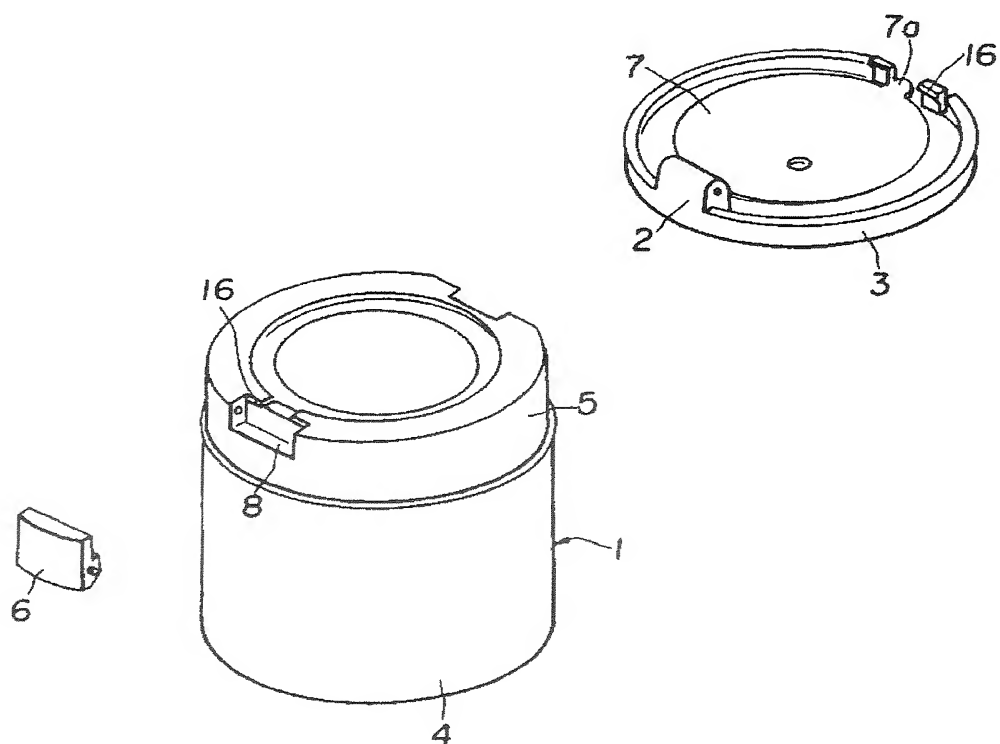
出願人 株式会社 資生堂 ほかに1名

代理人弁理士 志賀正武

502

実用 昭 59— 115756

第 5 図



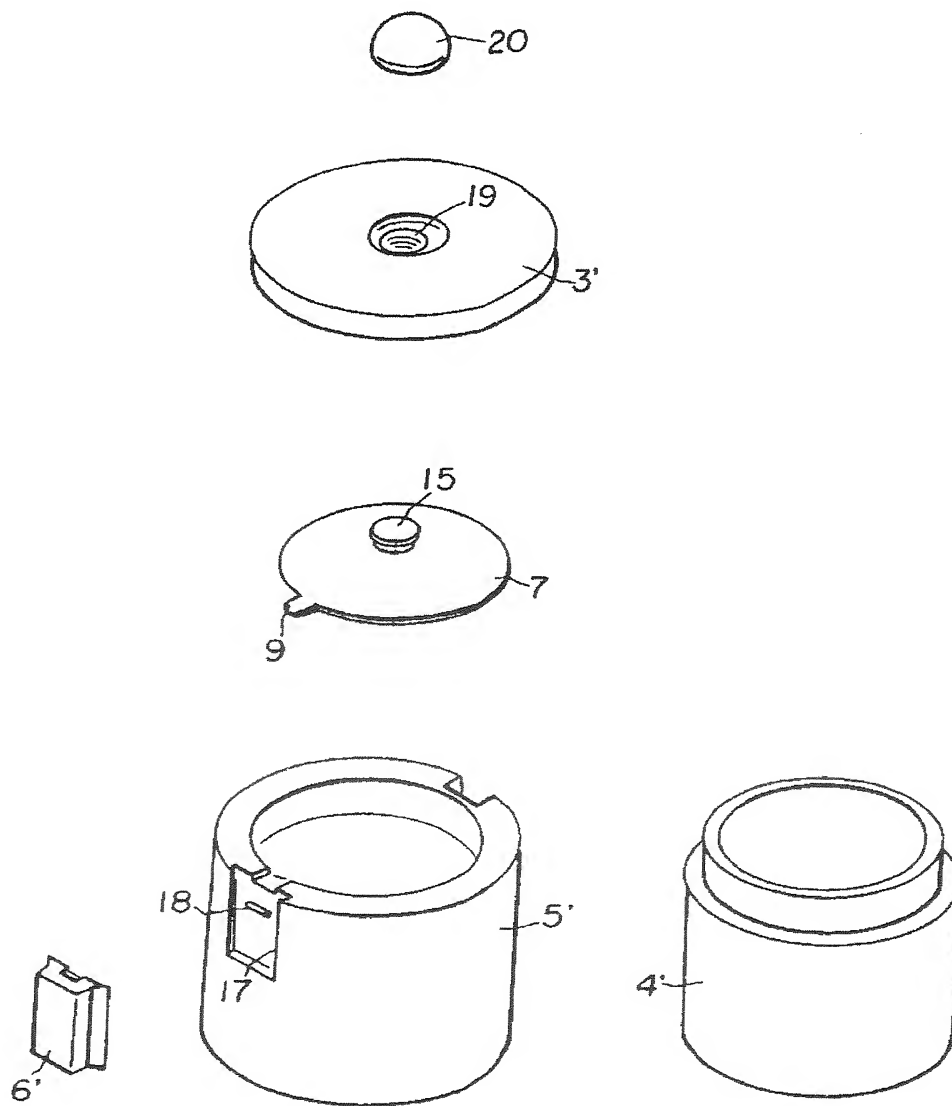
出願人 株式会社 資生堂 ほか1名

代理人弁理士 志賀正武

503

実開 59-115756

第 6 図



出願人 株式会社 資生堂 ほか1名

代理人弁理士 志賀正武